

栄耀普請土蔵の建築技法

―塩尻市・重要文化財

堀内家住宅の建造物調査から―

はじめに 長野県塩尻市に所在する堀内家住宅は、優雅な棟端飾りと均整の取れた意匠から、この地域に見られる本棟造り民家の一頂点と呼ばれることも多い。当家は、昭和48年に主屋と表門が重要文化財建造物に指定されて以降、所有者により管理公開がおこなわれてきた。現在は住居機能を敷地内の新居に移し、一層の活用が可能な状況にある。本調査は、塩尻市が当研究所に委託して実施した、保存活用に向けた建造物調査である。

当家には屋敷地内に複数の歴史的な建造物や庭があり、屋敷全体の構えが良好に維持されており、一体的な活用が望まれる。その中で、当家の文庫蔵・本蔵・米蔵は建築年代も明らかであり、特に文庫蔵は造営史料も残されている。詳細は『重要文化財堀内家住宅保存活用計画調査報告書』（塩尻市教育委員会、2007年）に譲り、本稿では、文庫蔵に見られる特長的な建築構法について、本蔵・米蔵および近隣の有賀家土蔵と比較しながら、地域色とその中での独自性について明らかにする。

規模と意匠 文庫蔵は明治11年建築である。瓦葺置き屋根形式の土蔵で、下屋の木部も塗り込めて置き屋根にする。この点は他の蔵と共通で地域色と考えられる。桁行6間、梁行3間で、南面（正面）と東面に下屋を回して、東面は味噌蔵部屋にしている。外観上の特徴である海鼠壁は亀甲型で下屋柱にも貼り付けており、錠前金具には宝尽くし紋様が刻まれるなど、豪華な造りである。

規模（桁行×梁行）と海鼠壁で比較すると、本蔵は3間

×2間で海鼠壁無し、米蔵は6間×3間で海鼠壁無し、有賀家は5間×2.5間で海鼠壁四半貼りである。有賀家のように、周辺の立派な土蔵で四半貼り海鼠壁はいくつか確認できたものの、亀甲貼りは確認することができなかった。

小屋組 文庫蔵の小屋組は、建物中央筋間に牛梁状の棟木を架け渡し、この棟木を建物中央では42cm角の大黒柱で、その東西は梁束立てで受けるが、棟木端部、すなわち両妻面は厚板を積み上げて、この棟木を受ける特異な形式となっている。本蔵・米蔵・有賀家土蔵の何れもが妻面を和小屋形式としているのとは異なる。和小屋が軸組構造であるのに対し、積み上げ形式は組積構造である。このような組積構造の建物は、八ヶ岳山麓を中心として長野県に広く、井籠倉と呼ばれ分布する。井籠倉はいわゆる校倉造りであり、壁体は妻壁も含めて組積構造とし、土を塗って土蔵にすることも多い。文庫蔵の積み上げ式の建築技術は、地理的に考えて井籠倉と関連するものと想定できる。堀内家の土蔵の中でもっとも豪華な土蔵にこの構法が用いられていることは注目しておくべきであろう。

また、造営史料の「努蔵新築木積り帳」では、この妻面の小屋組に用いる厚板材を「臺輪上ノ角」と表記している。

壁構法 この地域の土蔵内壁は、厚い落とし板壁で構成されることが多い。文庫蔵・本蔵・有賀家はいずれも56ミリ厚の板である。しかし、その中で文庫蔵は落とし板壁が二重であることが確認でき、さらにその二重壁の間には径2～5ミリほどの小石が詰められている。

このように二重壁の間に小石を詰める事例は全国でも非常に珍しいと思われるが、砂を詰めたという伝承は僅かに確認できる。その場合の機能は、蔵破りが鋸を使えないようにするためとされている。文庫蔵についても他の機能を確認できないため、ここでは防犯対策と考えておくべきであろう。造営史料の「努蔵新築二付諸事記」によると、付近を流れる田川で砂利取りをおこなっている。この砂利を選り分けて、土壁用の骨材や床下の小石敷きなどと共に、二重壁充填用に利用したと考えられる。

落とし板の矧ぎ合わせは、文庫蔵が雇い実矧ぎで、他は胴付き太柄矧ぎである。雇い実にしてあるのは詰めた石がこぼれないようにするためと見て良い。史料中で



図82 堀内家文庫蔵外観

は、雇い実を「目板」と表記している。

栄耀普請 当家の調査の中で、文庫蔵のような造りを「栄耀普請」と呼ぶということを聞き取りできた。少なくとも塩尻市床尾付近では使われていた言葉という。

栄耀普請の語はこれまで福井県や鳥取県で確認されている。主屋に使うことが多い言葉であるが、「立派な、贅沢な造り」を意味する。造営史料の「努蔵建方並置屋根 其他一式大工渡シ書留」では、部位と人工^{にんく}を列挙した後、「右仰通□極上仕揚ヶ渡し」と記している。

このことにより、これまで見てきた堀内家文庫蔵の構法上の独自性を、栄耀普請の用語から、この地域の蔵造りにおける、極上の建築技術と結びつけて解釈できよう。おわりに 以上、堀内家文庫蔵の建築技術は地域色を基盤としながら、その中でこの地域での栄耀普請を体現する貴重な建造物である。その価値は本棟造りの一頂点とされる主屋に相応しく、文庫蔵そのものもこの地域の土蔵の一頂点として位置づけられる。今後はその価値を公開活用の中で広く伝えるべきである。 (黒坂貴裕)

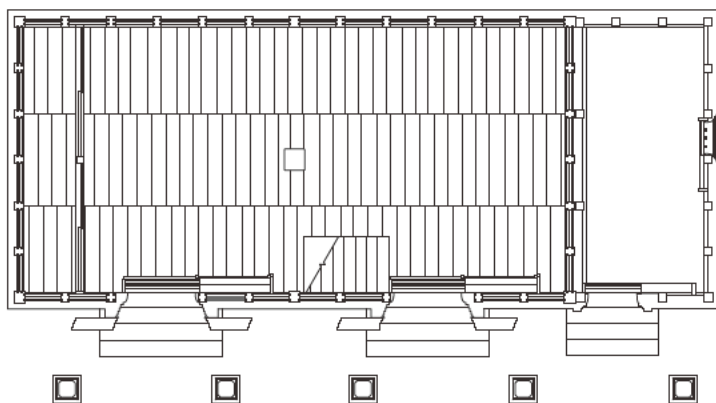


図83 堀内家文庫蔵 1:150 (左:1階平面図、右:梁行断面図妻面筋)

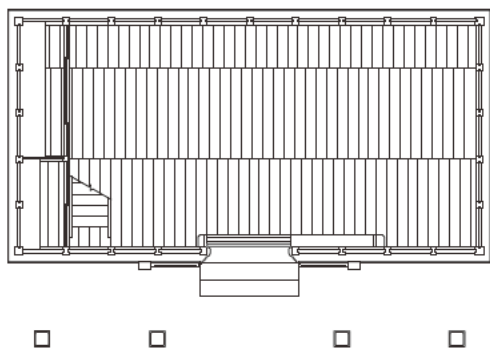


図84 有賀家土蔵 1:150 (上:1階平面図、下:梁行断面図妻面筋)

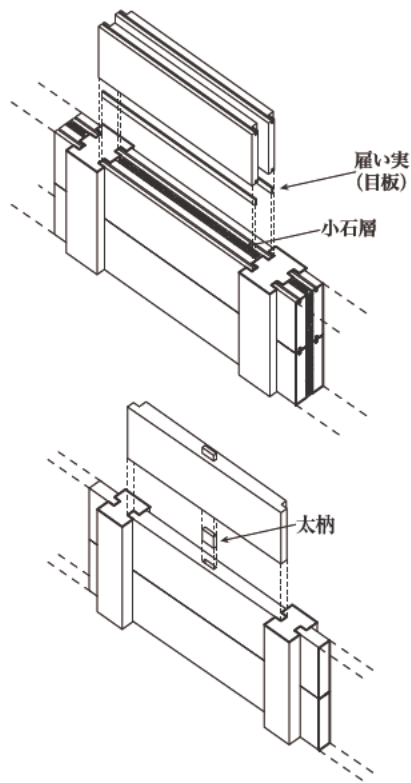


図85 壁模式図 (上:堀内家文庫蔵、下:有賀家土蔵)